

校園長室から



学校教育目標

共に学び共に伸びる子ども

- ・いのちを大切にできる子ども
- ・だれとでも仲良く協力し合う子ども
- ・意欲をもち学習する子ども
- ・ねばり強くはたらく子ども

令和7年7月24日 第64号

新聞配達人

昨日のことです。

今季初の平日一日お休みをいただきました。

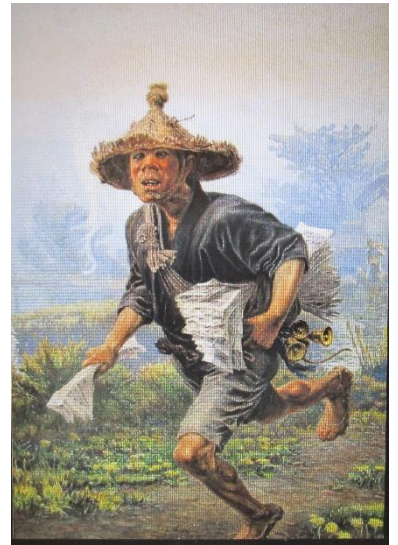
考えていたことがあったのです。

それは、平日の真昼間に美術館に行くこと。

空いているはずで、ゆっくりと作品を眺めることができるはずと。予想は、ぴったり。しかも嬉しいことに地下鉄の駅からその美術館までは、地下街をくぐっていくので、うっすらクーラーが効いています。

見たかったものは、伊藤若冲と円山応挙がそれぞれ一幅ずつ描いた屏風。「そなん今まで知らなかった」と、よくよく調べてみると、初公開だとか。

期待通りの作品で、しみりしているところへ右の絵が飛び込んできました。



笠木次郎吉の『新聞配達人』。

あまり有名な画家ではないのですが、品評会をして値段を出すテレビ番組で知って以来、市井の人々の日常を描かせたら、素晴らしい世界を作るなあと感心していたのですが、今回偶然にもその絵に遭遇。新聞を握りしめて懸命に走る姿。腰に付けた鈴の音がガラガラ聞こえてきそうで。遠い昔、はじめてアルバイトをしたのが新聞配達。夏の暑い朝、団地の階段を駆け上っていた10代最後の自分自身を思い出させてくれる絵の迫力。

あの頃の夢を果たしたのかと自問させられる一枚。

あの必死さはいま私の中に残っているのか。絵は問いかけてきました。